公益財団法人　日本クリスチャン・アカデミー機関誌

はなしあい

題字　元総理 片山哲 筆

2026年11・12・27年1月号

編集発行人
公益財団法人　日本クリスチャン・アカデミー
代表理事　中村　信博
発行所
日本クリスチャン・アカデミー
京都市左京区一乗寺竹ノ内町２３
075（711）2147

NIPPON CHRISTIAN ACADEMY　第644号

「能舞台『豊響殿』と秀吉」

賛助会員・元関西運営委員
橘　俊子



２０２６年４月、関西セミナーハウスの和風庭園にある能舞台「豊響殿」で、２年ぶりに観世流林家十四世当主林喜右衛門による能「頼政」が上演されました。

「豊響殿」は、松が描かれた鏡板や橋がかりを備えた本格的な能舞台で、橋がかりの前には、大中小の３本の松が植えられています。

今年の大河ドラマにもなっている豊臣秀吉は１５９８年に生涯を終え、遺命により京都東山阿弥陀ヶ峰（東山通七条の東）に埋葬されました。翌年には、日本最初の権現造りの社殿「豊国社」が造営され、後陽成天皇より「豊国大明神」の神号が与えられました。

秀吉の死後、豊臣政権内部での対立が表面化して天下分け目の戦いとなった１６００年の関ヶ原で徳川家康率いる「東軍」が勝利を収めた後も、京・大坂では、秀吉の人気は絶大で、７回忌にあたる１６０４年（慶長８年）８月には、８日間にわたって、豊臣秀吉を慕う一般民衆から、豊臣恩顧の大名、公家、公武のトップ層にいた女性たちまで、身分を超えた膨大な数の人々が集まって豊国大明神臨時祭礼が盛大に行われました。その様子を描いた六曲一双の「豊国祭礼図屏風」（伝・岩佐又兵衛作）が、豊国神社の宝物館に納められています。

しかし、１６１５年、大阪城に立て籠った西軍が、大阪夏の陣で敗れ、徳川の時代になった後は、墓も豊国神社もすべてが破壊され、２５０年以上もの間、生い茂る雑草に埋もれ、跡形もなくなっていました。

明治維新になり、秀吉に強い親近感を持ち、高く評価していた明治天皇の意向により豊国社が再建され、秀吉の墓所は阿弥陀ヶ峰山頂、麓から５６３段の石段を登ったところに「豊国廟」として再興されました。

１８９８年（明治３１年）４月には、秀吉三百年忌が盛大に営まれました。阿弥陀ケ峰中腹に建てられた能舞台で、東西の能楽・狂言師計２１８人が出演して４日間にわたり奉納能が盛大に上演されました。

現在、関西セミナーハウスにある能舞台は、その時建てられた歴史的な能舞台です。特徴は、周囲の４本の柱が円柱になっていることです。

能のシテは面を被っているので、視界が極端に狭く、柱によって自分の立っている位置を知ります。角柱なら位置がはっきりしますが、円柱では分かりにくいので、能舞台の四隅にある柱は、面取りされた四角形の柱が使われ、円柱が使われることは、普通はありません。秀吉三百年忌に間に合わすために、大急ぎで作られたためか、北山杉を、四角に削らずに丸太のまま用いたと伝えられています。

この特徴を、天野文雄氏（大阪大学名誉教授）がセミナーハウスを利用されたときに「丸い柱は特異」と指摘、三世茂山千作氏の書「狂言八五年」などの文献から、この能舞台の由来が判明しました。

三百年忌の後、能舞台は、平安神宮、豊国神社、京都能楽堂、京都倶楽部などを転々としたあと修学院の実業家の別荘に移築されました。その別荘を１９６２年日本クリスチャン・アカデミー財団が購入して現在に至っています。

秀吉については、晩年の秀次と周囲の人たちに対する処遇の冷酷さや、２度にわたる朝鮮出兵などが、彼の人気に影を落としたことは。否めません。

豊国神社のすぐ近くにある耳塚に、韓国からの修学旅行と思われる子供たちが集まって、教師から説明を聞いているのを見ると、歴史を変えることができない辛さを感ぜずにはおれません。

（日本キリスト教団賀茂教会員）

関東活動センター

●2026年度　宗教対話Ⅲ
「イエスとともに生きて死す」
～ハンス・キュンクの生涯と思想～

講師　神学者　福嶋　揚さん

2026年4月～2027年3月 第4木曜(8・12月休会)
Zoomによるオンライン

関東活動センターでは昨年度のハンス・キュンク著『イエス』読書会に続いて、『イエス』の翻訳者であり、また現在『福音と世界』誌に「異端者の世界航海―ハンス・キュンクの生涯」を連載執筆中の福嶋揚さんに、全10回でキュンクの生涯と思想をたどる連続講座をお願いしました。

福嶋さん曰く、キュンクは最も世界的なスケールで活動したキリスト教神学者です。1928年生まれのキュンクは1962年に始まった第二ヴァチカン公会議に最年少の神学的助言者として抜擢され、教会改革のために奔走し、公会議の開放・改革の方向性に大きな影響を与えました。カトリック神学生であったキュンクは、プロテスタントのカール・バルトによる『教会教義学』を精読し、義認論で学位（リッェンティアート）論文と博士論文を書き、その始めからエキュメニカルな神学者として歩み出しました。しかし、そのいくつもの著書はヴァチカンから異端視され、公会議以降の復古主義への揺り戻しの中でカトリック教授職を剥奪されるという危機にも直面しました。



福嶋　揚　講師

この講座では、講師が執筆中のキュンクの伝記の原稿の章立てに基づき、キュンクの生涯を年代別に学び進めています。9章のうち夏までに4章の公会議後の保守反動に対抗し、1970年に教皇の不可謬性の教義に疑問を投げかける著作を発表し大きな論争を引き起こしたところまでを学びました。11月以降の学びでは、キュンクはヴァチカンからの圧力に屈することなく世界へと出て行き、世界の諸宗教との対話や諸文化との対話を行ったこと、なおもカトリック教会に最後まで留まって改革に尽力し続けたことを学ぶ予定です。

毎回のZoom講義の録画は後から視聴することもできますし、最終回は受講者からの質問の時とします。大著となるキュンクの伝記のほぼ全てを刊行前に読むことができ、著者にも直接質問するチャンスがありますので、今から参加しても損はありません。キュンクの目指した世界と教会を一緒に分かちあえればと思います。

小田　哲郎
（関東活動センター運営委員）



主のご降誕と新年を迎えるにあたり、ご挨拶を申し上げます。

本年も世界の各地で戦禍はやまず、また内外に繰り返した災害に悩まされて過ごしました。被害を受けられ、また犠牲となられたみなさまの上に、主の慰めと癒やしを祈ります。神によって創造された世界が美しい秩序と調和を保つことができますように。そして、この祈りのために微力を尽くしてまいります。

みなさまの上に、飼い葉桶にねむる幼子の平和と希望が豊かにとお祈り申し上げます。

公益財団法人日本クリスチャン・アカデミー
代表理事　中村　信博

評議員　井上　依子　　理事　浦上　充
〃　古賀　博　　〃　神崎　清一
〃　小原　克博　　〃　神田　健次
〃　新野(藤浪)敦子　　〃　柴田　賢司
〃　増田　琴　　〃　村上　みか
〃　山本　俊正　　〃　山本　知恵
〃　和田　喜彦　　監事　黒岩　裕二
〃　　〃　柳井　一朗（五十音順）

関東活動センター　関東運営委員長　浦上　充
所長代行　古賀　博

関西セミナーハウス活動センター　関西運営委員長　山本　俊正
所長　神崎　清一
所長代理　後宮　嗣
関西セミナーハウス　経営委員長　神崎　清一
館長　森口　明洋
本部事務局　事務局長　神崎　清一
財団職員一同

・現在「はなしあい」は季刊であるため、少し早めのご挨拶をさせていただきました。

関西セミナーハウス活動センター

●2026年度「開発教育セミナー」第1回
共催　（公財）京都市国際交流協会
「開発教育入門セミナー～食べ物から考える世界とわたし～人権・平和・環境などの地球的課題を学ぶワークショップ～」
地球市民フォーラムなら　林由輝子さん
関西セミナーハウス活動センター　開発教育研究会　友前尚子さん、西上壽一さん
2026年6月21日(日)
会場　京都市国際交流会館(kokoka)



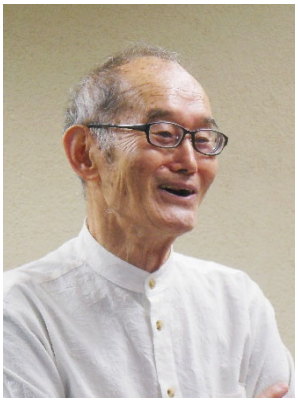
午前の「写真で学ぼう！『地球の食卓』」では、世界24カ国30家族の一週間分の食料の写真集から五つの家族の写真を使用し、気づいたことを話し合うことから始まった。エクアドルの一家族の写真では、気づいたことを伝えあいながら細部まで興味深く見ていくと、食材の種類が少ない質素な食事だという印象から、伝統的で滋養に富み、ゴミや輸送の環境負荷が少ない持続可能な食生活との認識へと変容した。セミナー前日は「世界難民の日」。チャドにあるスーダン難民の家族の写真では、そこには見えない、故郷を逃れる旅の困難さや家族の強さも理解した。食べ物というありふれたものから、広く、深く開発問題を学ぶ学習へ発展した。

午後の「のぞいてみよう！チョコレートが私たちにとどくまで」では、チョコレートの包装を手に取り、記載されたマークから人権・環境問題への取り組みに気づいた。ガーナ、インドネシア、ペルーのカカオ農家のシミュレーションでは、ガーナの地主によるカカオ農園の金採掘地への転用、病害虫の発生による不安定な収穫、重い小作料負担を疑似体験した。小学生の参加者の「ずるい！」のつぶやきが不平等なシステムの核心であり、国際価格決定過程や少ない農家の利益配分など、問題の背景を理解した。取り組みの例として、フェアトレード豆供給におけるペルーの協同組合が紹介された。

これらの活動が開発教育とは何かを考える多くの示唆となり、理解につながったのではないだろうか。



●2026年度 修学院フォーラム「社会」第2回
「現場から平和をつくりだす」
講師　公益財団法人 神戸学生青年センター理事長　飛田 雄一さん
2026年6月27日(土)
会場　関西セミナーハウスとZoomによるオンライン



講演では講演者の生い立ち、関西セミナーハウスとの関わり、神戸学生センターの変遷に続いて飛田雄一さんが関わった現場での取り組みが時系列に沿って紹介された。主なものを挙げると、孫振斗裁判（1970年代）、指紋押捺拒否闘争（1980年代）、スリランカ人留学生ゴドウィン裁判（1990年代）、阪神淡路大震災時における外国人支援（1995年）、神戸電鉄敷設工事朝鮮人労働者モニュメント建立（1996年）、「神戸・南京をむすぶ会」主催「南京への旅」（1997年以降）などである。いずれもが戦時下から現代における在日、滞日外国人との出会いと関わりを通して与えられた裁判闘争、調査・支援活動、交流の取り組みであった。

一つひとつの出来事は日本の外国人に対する態度と意識を映し出しながら、なお人との出会いがいかに人を動かし、運動として展開していくかを物語るものであった。裁判や記念碑建立を通して、当事者の尊厳を守る戦いや交渉が可視化され、共有されていく。まさにある事態が「現場化」することによって平和への契機が生み出されていくと言えよう。

講演後の話し合いでは、参加者からそれぞれの現場での課題や葛藤が語られつつ、講師との活発な質疑応答がなされた。飛田雄一さんのユーモアに溢れ、人と関わることを楽しんでいるような語り口、そして神戸学生青年センターの働きが多くの仲間によって担われ、支えられてきたとの証言は、参加者に勇気と希望を与えてくれたはずである。

●2026年度「開発教育セミナー」第2回
「『カレー移民の謎』から考える私たちの社会」

講師　アジア専門ジャーナリスト　室橋　裕和さん

2026年7月12日(日)
Zoomによるオンライン



第1セッションでは、在留外国人に関する制度をクイズ形式で学んだ後、講師から日本の「インドカレー店」の多くをネパール人が営むに至った経緯と課題を聞いた。家族滞在で呼ばれた妻の就労と育児の二重負担、子供が母語も日本語も不完全になるダブルリミテッドや不就学、送り出し地域の疲弊、在留資格厳格化による経営管理の資本金三千万円問題などである。印象に残ったのは送り出す側の現実だ。多くの人々の出身地バグルン地区では働き盛りの人々が去り、農地は荒れ、学校の統廃合が進む。それでも子どもたちは日本で働きたいと目を輝かせるという。

第2セッションでは、介護従事者の不足を外国人が支えている現状を聞いた。施設の雰囲気が明るくなったと評判は良く、すでに日本人を外国人が看取る時代だという。外国人労働者は日本人の仕事を奪っているのではなく、日本人が担わなくなった現場を支えている。その実態を顔の見える形で伝えたい、と講師は語った。

参加者からは、昨年の参院選以降、外国人への排他的な発言が口にしやすい空気になったという実感が語られた。だからこそ「そうではない」と否定し、肯定的な声を見える形で発信していきたいとの発言があった。ネパール人をめぐる現状は在日コリアンや中国残留邦人、日系移民の歴史と重なり、そこから学ぶ姿勢が求められている。夜間中学の教員、外国人支援の実務者、日本語ボランティア、元海外青年協力隊員などが参加し、対話を通して心を寄せ合えた。

●2026年度 修学院フォーラム「いのち」第1回
「哲学によって社会をデザインする」

講師　哲学者、京都市立芸術大学美術学部デザイン科講師
谷川　嘉浩さん

2026年9月12日(土)
会場　関西セミナーハウスとZoomによるオンライン



世界や社会の変化のなかで、いままで自分にとって当たり前のことのように思えていたことが、当たり前でなくなり、戸惑うことが多くなった。若い哲学者である谷川嘉浩さんの話をお伺いし、私たちがこの先、どのような視点や方法でもって、歩んでいくのかということを共に考えたいと思った。

「『孤独でいること』と『公共性への回路を持つこと』。私のこれまでの哲学研究や文筆活動はこの話に終始してきたと言えます」と、谷川嘉浩さんが案内で記されているように、「公と私の歴史の現在」ということについて、ジョン・デューイやキルケゴール、中野重治や鶴見俊輔などの考えを用いて話された。

谷川嘉浩さんが提唱されたのは「パブリックを建て直すというよりも、プライベートを建て直すことを考える」ということであった。世界がどうであろうと、自分がこれをやっていると楽しいと思える感覚を取り戻すことが大切ではないかということであった。

わたしの世代（63歳）とは、まったく違った感性や違った方法で、その歩みを整えていることを感じることができ、とても刺激的であった。「谷川嘉浩さんのポッドキャストを聞いているので、今回、やってきました」という参加者もおられ、話の内容だけでなく、そうしたスタイルを学ぶことができたのは、とても有益なことであったと思う。

私たちもどのような方法で、どのように私たちの社会をデザインするのかということを考えていきたい。

（プログラム実行委員）　小笠原　純

関西セミナーハウス報告

●カブトムシまつり2026



2026年6月28日(日)
会場　関西セミナーハウス

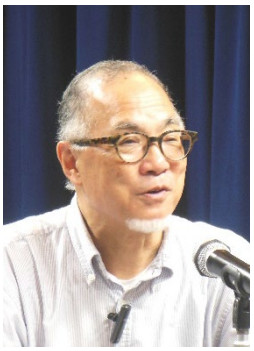
子どもたちに人気のカブトムシまつりが、今年も開催されました。恒例の「木登りレース」は、予想を上回る予約で、事前に受付を終了する人気ぶり。大人と子ども合わせて120名が参加しました。



●2026年度 修学院フォーラム「いのち」第2回
「宣教としてのディアコニア ～釜ヶ崎キリスト教協友会の働きから～」

講師　日本福音ルーテル豊中教会牧師、日本福音ルーテル教会 釜ヶ崎ディアコニア・センター「喜望の家」代表　秋山　仁さん
関西学院大学神学研究科、関西労働者伝道委員会　佐々木　愛さん

2026年9月26日(土)
会場　関西セミナーハウスとZoomによるオンライン


秋山　仁さん


佐々木 愛さん

講師に、秋山仁さん、佐々木愛さんお二人を迎えて、釜ヶ崎の現在をお話しいただいた。

世代の違うお二人から、共通の社会の課題と向き合うことを通して、人間としての生き方が問いかけられるような発題がなされた。

人はその生活の場において、言葉を通して、他者と出会う。他者の目を見て、表情を観て、その人の息遣いを感じ取りながら、お互いが出会い、繋がりを深めていく。

お二人が、この表記の課題と向き合われ、苦悩されながらも、人と出会われ、活動を粘り強く続けておられるその真摯な生き方に、深く心を打たれた。

講師のお二人に共通しているのは、何より、人が好きであるということだ。それは、人と出会い、共に喜び、痛みを分かち合い、悲しみを共にする生き方をされていることに尽きる。こうして、人は人と出会い、その人の抱えている社会の課題と向き合い、共に生きることを通して、人間としての尊厳を、お互いに深めていくのではないかと思った。

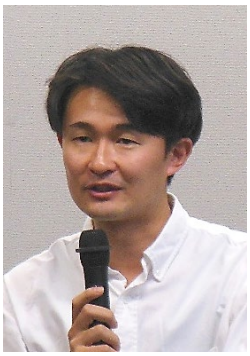
報告　柳井一朗

●2026年度 修学院フォーラム（「社会」第3回）「エネルギーを考える」第14回
「なぜ今なお原発なのか?」「それでも日本に原発は必要なのか?」
「再生可能エネルギーが切り開く未来―脱炭素時代の課題と希望」

講師　京都大学大学院・若者気候訴訟原告　横山　椋大さん
ジャーナリスト、作家、日本ペンクラブ言論表現副委員長　青木　美希さん

2026年10月11日(日)～12日(月・祝)
会場　関西セミナーハウス


青木 美希さん


横山 椋大さん

福島原発事故から15年が経過した。しかし今なお多くの人が住むところを追われ、定住の場所へ帰れないでいる。事故を起こした原子炉は、今も放射能を放出し続け、周辺の人々を放射能障害の危機に晒している。他の原子力発電所は、今も何もなかったかの如く操業を続け、地震の度に大事故を起こさないか心配されている。事故を起こさなくても、それらは常に危険な放射性廃棄物を生み続けているので、その処置に行き詰っている。それでも政府と、電力会社は、休止している古い原発を再稼働させ、さらに原発を新設して、AIの普及などにより急増している電力需要に応えようとしている。それは、原発の危険性を覆い隠し、国民を危機に晒す策である。

一方、幸いなことに、太陽の光と風の流れは、地球上に隈なく注がれており、国によって偏ることなく、人間に危害を与えることもない。我々は、これらの再生可能エネルギーから有効に電気を取り出す方法を手にしている。

これまで我々は、原子力だけでなく、石油などの化石燃料を燃やして多くのエネルギーを得てきたが、それらは多くのCO_2ガスを放出して地球の温暖化を招いてきた。また石油の産地は偏っているので、それを巡る戦争が繰りかえされてきた。太陽光や風の流れの再生可能エネルギーは、有害な廃棄ガスを出すことがないので、地球環境を乱すことがなく、産地が偏っていないので、戦争を招くこともない。

再生可能エネルギーを最大限に生かすことは、国を越えて、自然とも共生する明るい未来を作ることになる。

そこで青木さんには、原発に依存する社会がどんな問題をはらんでいるか、現場に密着して紹介していただき、それを脱脚するためには、何が必要かを語っていただき、参加者と問題を共有した。

一方、横山さんには、広い見地から、再生可能エネルギーがいかに将来を切り開く策であるかを語っていただき、世界の多くの国で再生可能エネルギーの利用が着々と進んでいるのに、なぜ日本では、それが遅々として進まないのかを語っていただき、それを克服する道を共有した。

今回は、全日程参加だけでなく、1日目だけ、2日目だけの参加も容易にする参加費を設定したことも効を奏し、参加者は31名を数えた。

プログラム案内

◆関東活動センター

■2026 年度 宗教対話Ⅰ
読書会「キリスト教と文学」
講　師：柴崎 聰さん（詩人、日本聖書神学校講師）
日　時：4 月～2027 年 3 月、第 3 火曜（8、12 月休会）14:00～15:30
参加費：1,000 円／回
会　場：関東活動センター会議室（キリスト教会館 1 階 16 号）

■2026 年度 宗教対話Ⅲ
「イエスとともに生きて死す～ハンス・キュンクの生涯と思想～」
講　師：福嶋　揚さん（神学者）
日　時：4 月～2027 年 3 月、第 4 木曜（8 月、12 月休会）19:00～20:30
参加費：全10 回 12,000 円、学生 8,000 円
方　法：Zoom によるオンライン講座

■2026 年度 話し方ワークショップ
「さらに豊かな礼拝のために
ことばを届けるトレーニング」
講　師：友野富美子さん（日本キリスト教団深川教会牧師）
日　時：9 月～12 月、第 2、4 金曜（全 7 回）18:30～20:00
参加費：各回 1,500 円／回
会　場：日本キリスト教団東中野教会

本年7月の熊本地震で、製紙工場が被災したことにより、今号から、紙面用紙を変更しています。被災された現地の皆様に、心よりお見舞いを申し上げますと共に、これからの復興を切に願っております。

財団本部 HP　関東活動センターHP
関西セミナーハウス HP　KSH 活動センターHP

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー
代表理事　中村　信博
本部事務局
〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町 23
TEL 075-711-2147
FAX 075-701-5256
関東活動センター
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18 日本キリスト教会館 1F
TEL 03-3207-6198
E-mail :info@academy-tokyo.com
郵便振替 00190-7-109437
関西セミナーハウス
〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町 23
TEL 075-711-2115
FAX 075-701-5256
E-mail :info@kansai-seminarhouse.com
関西セミナーハウス活動センター
〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町 23
TEL 075-711-2117
FAX 075-701-5256
E-mail :office@academy-kansai.org
郵便振替 01020-1-5184

◆関西セミナーハウス

■清心庵の日
「清心庵茶席―錦秋―」
日　時：11月22日（日）9：00～15：00　1 時間毎、各 8 名（ご予約優先）
参加費：2,500 円
「夜 咄（よばなし）」
日　時：12月12日（日）16:30～20:30　1 時間毎、各 8 名（ご予約優先）
参加費：2,000 円

■秋のオープンハウス 2026
～紅葉の関西セミナーハウスへ、ようこそ～
日　時：11月23 日（月・祝）10:00～16:00
参加費：無料（お茶席、弁当は有料）
茂山千三郎一門による狂言「附子（ぶす）」「萩大名」、野点（京都先端科学大学茶道部）、ストリートピアノ、特製弁当 他

◆関西セミナーハウス活動センター

■2026 年度 修学院フォーラム「社会」
第4回「ポンコツでいこう
―『後期新自由主義』への抵抗」
講　師：桜井 智恵子さん（自由学園特任教授）
日　時：11月7日（土）13:30～16:00
参加費：2,000 円 学生 1,000 円
方　法：会場関西セミナーハウスとZoom併用

■2026年度開発教育セミナー［対面開催］
第5回「ある家族の記憶から
～「満蒙開拓」と中国帰国者～」
講　師：山崎　哲さん（京都大学大学院文学研究科特定研究員（学振 PD））
日　時：12月19日（土）16:00～20日（日）12:00
参加費：13,500 円（1 泊 2 食、宿泊税込）
会　場：関西セミナーハウス

■2026年度 修学院フォーラム「いのち」
第1回「ユース・エンパワメント」（仮）
《共催　京都YWCA》
講　師：日吉和子さん（看護師、医学博士）
日　時：2027 年2月27日（土）
方　法：会場 京都 YWCA（予定）とZoom 併用
・詳細調整中

■2026年度 修学院フォーラム「いのち」
第4回「旧約聖書と現代の課題」（仮）［対面開催］
講　師：月本 昭男（立教大学・上智大学名誉教授）
日　時：2027年 3 月21日（日）～22 日（月）
・詳細調整中

冬の宿泊研修プラン　1・2 月限定
【対象期間】2027 年 1 月 8 日（金）～2 月 28 日（日）
※土曜・休前日のご宿泊は対象外です。
◎ 北棟シングル利用　お 1 人様 14,500 円～（税込）※市宿泊税別
会議室利用＋宿泊＋夕食・朝食・昼食（3 食付き）
⇒ お申込み・お問い合わせは、関西セミナーハウスフロントまで

賛助会費・寄付金報告

2026年7月1日~9月30日（順不同・敬称略）

◆関東活動センター
賛助会費
神保　信子
洞口　優子
アジアキリスト教教育基金
古賀　博
立原　敬一
北原　和夫
寄付
竜野　かおる
日本基督教団早稲田教会
小栗　献
石橋　光朗
川北　かおり
洞口　優子
神学生交流プログラム寄付
島田　恒
神保　信子

◆関西セミナーハウス
寄付
武山 泰子
柴田 賢司
神崎 清一
中村 信博
京都いのちの電話
事務局長 鈴木 工
今若 京子
浅沼 弘一
船坂 孝江
ダイキン工業労働組合
林 律
長谷川 義紘
岩崎 順子
宮田 咲子
株式会社新経営サービス
全国本田労働組合連合会
株式会社三原工務店
山本 俊正
林 喜右衛門
中村泰洋園
森口 克洋
小田 美乃里
辻 紀子
竹田 美和
芝野 貴臣
パスロウドウクミアイ
諫早 道子
株式会社ワンアップ・ジョブ
株式会社藤木工務店
京都支店
牛尾 宣夫
和田 喜彦
神保 正男
株式会社 EMO 橋本 正
藤田 美和子
京都桃山アシュラム

◆関西セミナーハウス活動センター
賛助会費
大谷　光真
佐藤　友紀
徳丸　延子
都木　かおり
桜井　希
宇野　稔
喜多村　やよい
南　和子
寄付
中島　健二
大宮　有博
京都みぞわキリスト教会
竹中　百合子
多田出　佳代子
匿名
クリスチャン M.ヘアマンセン
桜井　希
柳井　一朗
喜多村　やよい

以上、感謝を持ってご報告申し上げます。